



アーチェリー

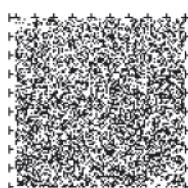
身体障がい者がプレーし、的に刺さった矢の点数を競います。弓の違いによって「リカーブ部門」と「コンパウンド部門」があります。



ルール

全国障害者スポーツ大会では、「リカーブ部門」と「コンパウンド部門」それぞれで50m・30mラウンドと30mダブルラウンドがあり、選手全員が一斉にプレーします。選手は2分以内に3本の矢を射ます。このサイクルを1エンドといい、1エンドごとに採点を行います。12エンドで1ラウンドとし、2つのラウンドで合計72射を行って、合計得点を競います。

ちょっと休憩



障がい者スポーツにアーチェリーが取り入れられたのは1940年代からだよ。アーチェリーは、1960年の第1回ローマパラリンピック大会から正式競技として行われているよ。

ぜんこくしょうがいしゃ
全国障害者
たいかい
スポーツ大会
パラリンピック

ポイント

競技種目(全国障害者スポーツ大会)

50m・30mラウンド

矢を射る場所(シューティングライン)からのまでの距離が50m、30mと2パターンあり、それぞれの各距離を1ラウンドずつの合計で競います。



50m
または
30m

30mダブルラウンド

シューティングラインからのまでの距離が30mあり、2ラウンドの合計で競います。

使用する弓は、リカーブボウとコンパウンドボウの2種類があります。

リカーブ部門

弓の先端が逆反りした形状の弓を使用します。オリンピックでも使用されている弓で、引くのに力を要します。



リカーブボウ

コンパウンド部門

弓の先端についた滑車でリカーブよりも小さい力で引くことができます。手や腕などに障がいがある選手も口などで弓を引いてプレーできます。



コンパウンドボウ

